

レポート「石木ダム問題について」

1	日本は国土の広さの割に河川の長さが短く、河川が増水時に氾濫することは日常的なことである。よってその治水のためにダムは重要であると言えよう。また、安全保障という側面以外にも公共事業という面からもダム建設は重要である。しかし戦後から行われた列島改造計画から時間も経ち、時代遅れという印象が否めない。更なるそのプロセスにも問題があるとなればその有用性には大きな疑問がつくと言えるだろう。
2	ダムを建設しようという計画がかなり前に決められて、ずっと反対する人がいるのにもかかわらず同じように実行しようとしていることに驚きました。住民の反対があるまま強引には進められない上に、自然の生態系を壊すような行為はあまり認められないと思います。
3	石木ダム建設については半世紀以上の抗争があり、一旦計画も止まっており、科学的にも必要性が窺わしいにもかかわらず、なぜ県は今現在も強引に工事を進めようとしているのか疑問である。公共事業を行うことに目的があるのかなど、推測できる。県議会内外や知事周辺の力関係などを分析し、誰のためのダム建設であるのか、明らかにする必要があると思う。
4	石木ダムの問題についてこの講義を受けるまで知らなかったが、概要を聞いて胸糞だと感じた。この問題で特に悪いポイントは、住民に対して十分な説明がなされていないこと、住民との約束を無視して強行的に進めていることだと思う。ダム建設の目的は佐世保市の水供給を安定化させるためとあるが、根拠となる市の出した水需要予測のグラフは素人目に見ても明らかにおかしいとわかる。過去の一日最大給水量の予測も、何度も外れている。そもそも、50年以上前に起こされた計画が現在の状態に当てはまるかが疑問だ。本当に現在ダムが必要なのだろうか。約束を守らない、根拠が曖昧、強行的にダム建設を進めようとする時代遅れの行政が現代に存在していることに驚く。目的の佐世保市への水供給だが、佐世保市の水道管の老朽化により毎日5万人分もの漏水が発生しているという。住民の住む土地を奪って行う政策よりも優先して取り組む課題があると感じる。県がなぜそこまでダム建設にこだわるかが理解できないが、もし今更後に引けないという理由だったら、長期的な損益も考えられない行政だと呆れるだろう。意地でもダム建設を実施するという行政の意志を感じるが、作った後のことは何も考えていないように思えてならない。
5	私は石木ダム問題という言葉は初めて聞きました。ダムの建設によって13世帯54人が住む場所を失うことも問題ですが、一番問題なのは住民にダム建設の客観的で合理的なデータを示していないのにもかかわらず強制収用という形でダムが開発されることが決定したことです。このような住民たちの理解がなされずにダムが建設されることは住民たちの財産権や居住権を奪うこととなり、また別の問題に発展するのではないかと思います。
6	石木ダムは、建設が予定されている地域の住民が建設に反対している。石木ダムは建設しても洪水対策にならない、給水量の予測値が急激に上がるとは考えにくいなどもある。地元住民にとっては、自分たちの住んでいる地域の大部分がダムの水の底になってしまうということで、体を張って阻止している。この石木ダム問題は、日本のダム行政の縮図ともいわれている。
7	今回の講義を受けて、私は石木ダムを建設する必要はないように感じた。近年、大雨による様々な災害が各地で発生しているが、ダムがあることによって発生した災害もある。また、これからは人口減少の影響で利水の機会も減少するようだ。そのため、ダムはもう以前に比べて必要とされておらず、ダムがなくても人々は不便なく生活できるのだ。
8	ダム建設を推し進めるべき客観的な理由はどこにもなく、佐世保市民が353億円という莫大な借金を背負うことになるそうなので、とても利益が少ない事業であると思います。佐世保市の人口は年々減少しており、その莫大な建設費用を払い続けるのは子育てをしている世代、その子供たちでするので、さらに負担が増えてしまいます。しっかり考えていかなければならない問題だと思います。

9	<p>県が出した石木ダムが必要な理由として将来の水需要が増えるからというのはあまりに考えにくいと思いました。日本全体の流れとして、人口減少、少子高齢化が進んでおり、石木ダム周辺においても今後の水需要は減少の一途をたどるのではないかと考えます。また洪水の対策のためという理由も、西日本豪雨で分かったように、あまりに大量の降雨があるとダムの能力を超え、甚大な被害をもたらすことになるため、異常気象が悪化している昨今、ダムは治水に適さないと考えます。</p>
10	<p>まず、2021年3月27日長崎市内配布のビラ『石木ダム工事の強行を許さない！県は平穏な生活を奪うな！工事を直ちに中止せよ！13世帯56人の生活・人権を守ろう！』の将来の佐世保市の水需要予測が実態とかけ離れていることにとっても驚きました。行政が市民や県民をバカにしているようでとても許せない行為だと思います。また、新聞やニュースでよく目にする反対運動やデモは怖いイメージがありますが、映画『ほたるの川のまもりびと』のように優しい雰囲気や言葉で伝える方が石木ダムのことを知らない人達にとってわかりやすいし、石木ダム建設反対運動の支援者も増えると思いました。</p>
11	<p>石木ダムが一番の問題点は県の治水計画に住民が納得していないのにも関わらず、事業を進めようとしている点であると思う。ダム建設の理由づけとなる佐世保市の水需要予測や工業用水の需要予測がずさんであり、また反対住民の思いを無視したまま強制退去させ、ダムを造るのは民主主義ではないと思えた。</p>
12	<p>石木ダム問題が未だに解決しないのは行政と住民との対話が不十分であるからだと思った。ダム建設は公共の利益のためにそこに住む人々の居住地だけでなく、地域のつながりや思い出などを奪う原因にもなる。しかし、国家規模で考えると、犠牲を出してでもダムを建設する必要があるのだと思う。ビデオの中で、住民の方々が雨の日も毎日バリケードを形成しているのを見て、自分の故郷を奪われるということは耐え難いものであるということを感じさせられた。しかし、石木ダム問題はいつか解決しなければならず、住民と行政の間でうまく折り合いをつけなければならないのであろうが、私自身その方法を考え付くことができず、非常に難しい問題であるように感じた。</p>
13	<p>私は長崎出身で浜の町などで反対運動などをやっていたにもかかわらず興味を示さず全く事情を知りませんでした。私は今回石木ダムの歴史を知るにあたって一番衝撃的だったことは、暴力はないにしろ政府が住民に対し力づくで機動隊を導入し強制的にダム建設の準備をしたという点です。また明治期の無理やり住民の前で家を破壊するということが本当におかしいと感じました。2019年から法律で予定地の強制収容、行政代執行が可能になっていることがすごいと思いました。深く考えて法律を作るべきだと考えました。 &lt;br&gt;</p>
14	<p>石木ダム問題について、1982年の県警機動隊導入で暴力はなかったとありましたが、映像を見て暴力に限りなく近い行為だと感じました。土地の売却はお金だけで解決されるものではなく、住民の人間関係や精神、その後の人生にまで影響すると知り、私が想像していたよりはるかに意識ダムの問題は根が深いことに気づかされました。住民には猛反対され、治水の面でもあまり有効ではないダムをなぜ強制的に建築しようとするのか長崎県側の意見も聞きたいです。</p>
15	<p>私は長崎で育ったため、石木ダム問題について耳にしたことはあったが、約60年という長い歴史があることには驚かされた。バリケードを張ったり、町中にダム反対の看板があったりと、川棚町の住民たちがここまで強い意志を持って積極的に阻止行動をしているとは全く知らなかった。また、長崎県が機動隊約140人を動員して強制測量を実施した際の映像は、想像以上の激しさに衝撃を受けた。ここで印象的だった言葉は「映像を見るだけでは、怖い人たちが行動しているように見えるが、実際は身近な人たちが参加している」というものだ。阻止行動をしていた住民も、普段は温かく、町への愛に溢れており、そのような一面を知ると、石木ダム反対運動への見方が変わった。県による根拠のない水需要の予測をもとに、川棚町の人々の大切な暮らしを壊してしまうのは、納得いかない。ダムを造るという案に、町の人が反対する理由がよく分かった。長崎県は、必要性をもっと明確にした上で、この提案をすべきであったと思うし、住民の労力と時間を何十年にも渡って奪っていることを自覚してほしいと思う。</p>

16	<p>今回の講義で初めて石木ダムについて知りました。さらにこの問題は昔のことではなく、今も住民による反対運動がつ図いていることを知り、驚きました。地元住民の「自分たちの場所を守りたい」という強い意志と団結力が素晴らしいと感じました。政府としてはこれまでに説得のために筋の通らない説明をしていました。私はなぜ明確な理由もないのにそこまでしてダムを造ろうとしているのだろうと非常に不思議に思いました。おそらく公には出せない理由があるのだろうとは思いますが、私はこの行為は市民のよりどころやまとめるという機能を全く果たせていないと感じました。 今回の講義を機に地元のダム建設について振り返りました。私の地元でのダム建設でも小学校の沈没などの問題があったため、もちろん反対する人もいましたが、利点が非常に大きかったこともあり、多額のお金をかけて建設されました。そしてこのことが地域全体の繁栄にもつながりました。 ダム建設は大きな利点がありながらも、一方で住民の住む場所にも大きな影響を及ぼすためできるだけ多くの人が納得するような状態にすることが大事だと感じました。しかし、この問題は簡単には解決することができないことも多いと感じました。</p>
17	<p>私は今回の講義を受けて石木ダムを建設するというより、現在老朽化している水道管の修理を行うべきだと考える。長崎県のホームページには、昭和42年7月の洪水により深刻な浸水被害を受けたことから、洪水対策あるいは水不足対策としてダムの建設計画に至ったと書かれていた。佐世保市によると石木ダムの建設費は285億円で、そのうち約100億円を市で負担すると見積もっている。しかし映像では石木ダムの建設によりそこに住む人々と行政の関係が悪くなっている様子も見受けられた。川棚町の人々と県の話し合いが進んでいないことや人口は年々減少しているため、ダムを建設する必要があるのか疑問に思った。視点を変えて佐世保市が抱えている水の問題を調べてみると佐世保市の水道管が老朽化して、2016年から漏水の問題が出てきていると分かった。このことから私は石木ダムの建設を早めるのではなく、まず漏水対策を行うことを優先した方が良いと考える。</p>
18	<p>まず地域一丸となつての団結力がすごいなと思いました。争いとは無縁でどこかに暮らしている雰囲気地域が、ダム建設を行うおうとする政府に歯向かう姿には驚きました。特に1982年の「強制測定」は政府の恐ろしさを感じ、住民の意思をないがしろにする面では憤りさえ覚えました。ダムの持つ意味合いが変わってきていると専門家の方がおっしゃるように、作るのであればその場所に住む住民たちを納得できる意味を表示し、賛同を得なければならないと思います。人間同士が争いをする場面は見たくないですし、それは誰しもが思うことです。政府と住民だけでなく、住民同士で争いがおこるようなことはよくないと思います。段階を踏んでから行動には出るべきです。</p>
19	<p>今までダムの建設問題は治水のためだったり、水の供給の安定性など何かしら住民に利益が及ぶものだと思っていたが、この石木ダムはあまり治水の効果も期待できないとのことだった。それなのに動画で見たあの豊かな自然を壊してまで作る必要があるのかと疑問に感じた。</p>
20	<p>私は今回の授業で、石木ダム建設のために機動隊まで動員し住民を力づくで排除し、強制測量した過去をががあったのを初めて知り、民主国家の日本であってはならないことであり、暴力は無いにしろ、これは立派な力による制圧ではないかと思いました。国の主体であるはずの国民の意見を完全無視し踏みにじる行為を行政はしていたのかと怒りを覚えました。しかし、そんなことがあっても、こうばるの人達はみんな一丸となり、行政に立ち向かい反対活動を取り続けているこうばるの人達は、とても強く団結力のある方達だなと感じました。また、こういう反対活動をする人達に対して少し怖い印象を受けていたのですが、この講義の中の動画を見ているとみんな温かみがある方達で優しく仲が良く、ただ行政のすることが許せない、この土地を守るんだという思いで反対活動をされているだけでいい方たちなのだなと思いました。人の一面、ニュースでちらっと見かけただけで、「この人たちは怖い人なのかも」と決めつけてはいけないなとも思い直しました。</p>

21	長崎県や佐世保市は、ダム建設理由として、利水、治水を掲げていますが、その客観的かつ合理的なデータは住民に対して十分に示されておらず、また、住民らの求める公開の場での話し合いの機会を設けようともしていません。人口の減少を鑑みて水需要が増えるという予測も理解できません。また、ダムを新しく建設するよりも老朽化している水道管などの補修にお金を回した方がより住民のことを考えた政策と言えると思います。
22	わたしはこの講義を受けて、まず最初に思ったことは、こんなにも身近な場所の問題なのになぜ今まで知らなかったのだろうということです。この講義を聞くまで石木ダムの問題は知りませんでした。動画にはおじいさんやおばあさんが畑で作物を育てたり子供たちがきれいな川で遊んだり日本のふるさとの原型のような場所だと感じました。立ち退きを拒む住民を政府は力づくで抑え込もうとしていることに驚き、一度話し合いをするべきだと思いました。動画で見た蛍の群れはとてもきれいで、たしかにダムの建設は必要かもしれないけどこの村に作るのには抵抗を感じました。これからは身近な問題として調べたいと思います。
23	石木ダムに反対していた13世帯の方々たちは自分たちの村を必死に守ろうと子供からお年寄りまでが一丸となっている姿を見て私が県の職員だったら、ダムを推し進めることは出来ないなと思いました。ダムを造ることで住人の日常を奪ってしまうことになるので、ダムの建設などは難しいなと思いました。
24	住民の了解を得ていないのにダム建設を実行しようとしているのは良くないと思いました。また、佐世保市が出している給水量の資料も信憑性に欠けるものであるし、建設費の半分以上を市民が負担しなければならないというのは、ますます住民への詳しい説明が必要なのではないかと感じました。住民が納得できるかたちで今ある問題を解決できるようになってほしいと思います。
25	石木ダム問題については、そもそも「石木ダムは必要なのかがはっきりしていない」ということが問題だと思います。これだけ長い間問題がとん挫していても十分生活が出来ているのに、どうしてまだ必要だと主張しているのか、県はちゃんと証拠を添えて説明すべきだと思います。
26	石木ダムについては以前テレビでドキュメンタリーを見たことがあり、なんとなくのことは理解しているつもりだったが今回知らないことも多くとても驚いた。とくに県が示している資料の強引さや、地域住民に遭遇しないように深夜や早朝に調査を行っているというは私自身も憤りを感じた。県はしっかりと住民の意見も聞き、納得できるようにダムの建設を進めるべきなのに、その説得ができないのであればダムの建設は行うべきではないと思った。
27	石木ダム計画は1972年に発表された計画であり、この計画を現代でもそのまま進めて良いものなのか疑問に思う。また、住民が納得することなく強制的に測量が行われたことは本当に正しかったのか検証する必要があると感じた。一度ダムの底に沈んでしまえば、集落で営まれてきた暮らしは二度と取り戻せないし、豊かな自然環境は失われてしまう。私は石木ダムの問題について、強引に計画を進めるのではなく、一度立ち止まって本当に必要なダム計画なのかを考える必要があると考える。
28	私は、石木ダム問題についてテレビなどでしか見たことがなかったので、行政の人たちに抗議をしている映像を見て、その地域に住んでいる方々を少し怖いなと思っていました。しかし、今回の講義での映像をみて、ただその場所の環境を守りたいだけなのだとわかりました。ダムを建設するということは、相当な水問題を考えていたのだと思っていただけで、映像中に出てきた行政が出したグラフには少し違和感を感じました。ダムを建設するとなると、ホテルも見れるくらい豊かな自然環境を壊すことにつながるため立ち退きたくないという住民の方の気持ちがよくわかりました。自分の地域に置き換えて考えてみると、生まれ育った場所が無くなることはとても悲しいです。自然の中で楽しそうに遊んでいる子どもたちや仲の良い近所の方々を見ると、その自然豊かな場所をなくさないでほしいと思いました。
29	石木ダムの建設には客観的根拠がなく、必要のない事業であると思います。建設目的である水不足の防止は、すでに佐世保の水は十分に足りており、目的になりません。また、もう一つの目的である洪水対策もダムを建設したからといって洪水を防げるわけではありません。90%以上の建設反対者の意見に耳を傾けるべきだと思います。

30	石木ダムについてはダムを建設すると、13世帯の家屋を奪ってまでのそれ相応のメリットや効果があるのかを考えたうえで評価してもらいたい。さらに地元住民の生まれ育った町を簡単になくそうとするのは、ひどいし、動画でもあったように地元の方々は川棚町を愛しているのがすごく分かった。またダム建設により、蛍などの生態系や町の風景を壊してしまうことになってしまうので、そういうダム建設のメリットだけでなく、多角的な視点から客観的に見てほしいと思う。
31	長崎県の川棚町という身近なところに石木ダム問題という問題があることを知りませんでした。ダム建設による利点が明確な根拠がなく、わからないのにもかかわらず、建設を推し進めようとする県のやり方に納得がいきませんでした。県による圧力によって土地を売り払う人もいましたが、それでも石木ダム建設が中止するまで、反対運動や見張りを続けている13世帯の方々がとても素晴らしいなと感じました。県に対しては、もう一度石木ダム建設が必要なことなのかどうか検討してほしいと思います。
32	僕は、県外出身なので石木ダムの存在を知らなかった。佐世保市の主張である佐世保市の水が足りていないのは、ダムを造るための過大な需要予測と専門家が話していたが、データ捏造してまでダム建設を強引に推し進めようとするのはもちろん土木ヤクザの利権が絡んでいるのだろう。佐世保市の人口が年々減少しているのを見るに353億円もの建設費用をどうするのだろうか。とある記事を読んだが、佐世保市は漏水がひどいと。先にそちらを対策したほうが良いように思えるのは私だけでないだろう。
33	建設の理由である水の確保、洪水の防止の根拠が乏しく、子育ての世代やその次の世代が大きくメリットのない膨大な工費と維持費を支払いを津回けることになり、さらに無意味に住居を追われる人々も出てくるため意識ダムの工事は行うべきではない。
34	石木ダムの最大の問題点はダムの建設費を佐世保市民が負担する必要があると言うことである。佐世保市と建設会社が共同で行っている建設であるが、佐世保市民にとっては税金が多く取られてしまうため、かなりの負担がのしかかっていると感じる。
35	石木ダムの問題は先月の街頭演説でも問題の一つとして取り上げられていて、住民の意志や思いを無視したような行政の対応はいかななものかと思いました。仮にダムが必要だとしてもそれがわかるように説明することも行政側がすべきことだと考えました。
36	いくらダムを建設することが国や県にとってプラスになることであっても今現在その場所に住民は確かに存在していてその住民の意見を無視してダム建設を横行することはしてはいけないことだと思いました。双方がしっかり話し合うことが重要と思いました。
37	自分はこの問題について知らなかったが、国のダム建設理由を聞いた時に呆れた。水不足の予測は当てにならないし、ダムの建設場所も上流ではなく下流の、それも支流で洪水対策にならなそうだったからだ。政府はなぜダム建設を強行しようとするのか説明責任をするべきだし、ダム建設以外の方法で問題解決ができないか模索するべきである。私の地元の宮崎にも和石という美しい場所があるが、なくなるのは不満である。ダム建設を強行しようとしている人たちは一回現地に行けば、自分たちが何をしようとしているのか分かるはずである。
38	私は、石木ダムの建設に反対の立場であったと思います。建設には多大な費用がかかり、そのうちの何百億円を佐世保市民が負担しなければならぬ中、市民はそのダムについて詳しく知らず、ただ大きな負担を負うだけであるということが許せないと思いました。また、長崎県知事の「河道整備が整えば、洪水はダムなしで対処できる」といった明言を発見し、石木ダムの建設は無駄であったのではないかと考えます。
39	石木ダムの建設の目的は、佐世保市の水の確保と川棚川の洪水の防止である。しかし、ダムの建設予定地は川棚川流域の11%しかなく、洪水防止に役立つとは言い難い。付近住民の立ち退きが建設のためには必須であるが、その代償に対しての効果が確かなものに思えないため、建設に対する反対の声は無くならないと考える。

40	<p>聞いたところ石木ダムを作る必要性がそれほど大きいわけでもないのに、犠牲者を出してまで、作ろうとしているのはあまり理解が出来ないと思いました。また、土地を手放さざるを得なくなった人に追い込まれてギャンブルに手を出してしまった人もいるということを知り、ひどい話だと思いました。おそらく、そうならなかった人も納得いかないまま土地を奪われてしまい、つらい思いをした人がたくさんいるでしょう。長い間議論してきて、ダムができなくても生活が成り立たないということはなく、普通に生活できているし、洪水対策といってもあまりその役目をはたさないようなので、本当にダムが必要なのかと私でも疑問です。たとえ必要だとしても、市民が納得できるような正当な理由を提示すべきだし、強制などというような方法ではなく、話し合いで解決すべきだと思います。</p>
41	<p>私は本川の十分の一しかない川なのに根拠のない水不足の予想をして、本当に必要ではないダムを造ろうとしている行政に反対します。故郷を奪われることはつらいことであり、故郷を大切にしてきた住民のことを何も考えていない判断だと考えます。県に説得され出ていった人が土地を売ったお金をギャンブルに使ってしまったという話が特に印象に残り、ダムの建設は人の人生も狂わせるような不当な政策だと思いました。</p>
42	<p>これまでの講義よりも、石木ダムについては理解できないことが多く、さらに調べた。確かに、佐世保市が何度も洪水被害に見舞われてきたということは事実であるとわかった。しかし、現在は節水技術も大いに発展してきている上に、これまでに出されてきた水需要予測というのはすべて大きく外れてきている。何を以てして水需要予測を出しているのか、もっと明確にしなければならぬだろう。また、ダムを作る前に、他に何か水供給を増加させる方法がないかの検証が行われていないのではないかと感じた。ただ、理解できないのは、県や市は、何故わざわざ莫大なお金をかけて、地元民からの反対意見が多い中でもダムの建設をしようとするのか。なにか利権が絡んでいるのか、一度言い出した手前止められなくなったのか。もしそうした理由であるのなら、すぐにやめるべきであるし、そうでないならば、誰もが納得できる、データに基づいた予測、説明を行い、住民の理解を得られるまで説得するべきで、決して暴力的手段をとってはならないと思う。</p>
43	<p>市の主張として、水不足のおそれがあるため建設すべきと訴えているが、実際に水不足にはなっていないので建設は反対したいです。洪水対策にもつながるとしているが専門家の予想としてはそこまで貢献してくれるわけではないし、なによりそこで暮らしている住民にとっては納得できないと思います。</p>
44	<p>石木ダム問題は、県と住民の話し合いがあまりにも行われていないが故に発生しているのではないかと捉える。最初は市も県のダム建設域の調査について反対していたが、地域住民の賛同を得ない限りダム建設は行わないという条件のもと調査に合意している。このような条件が示されているのだから、地域住民も、地域の測定に協力してほしいと思った。</p>
45	<p>石木ダムの建設にあたって解決すべき問題は2つあると考えられる。まず1つ目に考えられる問題点として、現地住民の理解を得られていない点である。1966年に建設の話が始まり、1972年に地域住民は予備調査に同意したが、結果的には23世帯は建設に反対しており、現在でも13世帯がダム建設に対して反対の立場をとっており、地域住民と行政との間には大きな溝が生じている。2つ目に考えられる問題点としては、ダム建設の正当性が疑われている点である。石木ダム建設の目的は、佐世保市の水不足に対応するため、氾濫を防止する治水措置などと言われているが、少子高齢化が進んでいる中で佐世保市の人口が講義中の画像のように増加するとは考え難く、石木ダムの集水域は川棚川流域の11%しかない。また、ダムを造る理由として洪水対策が上げられているが、2019年の西日本豪雨ではダムの放流により、多くの方が犠牲となっており、ダムによる治水措置の安全性が疑われている。佐世保市の人口を調べてみると、25万人ほどで、年々人口は減少している。そのため、推測されていた一日の最大給水量の市予測とは大きく異なるデータが出ると考えられる。そう言ったことを考えると、その土地に住む人々の生活を奪ってまで、石木ダムを建設する必要があるのかどうかを今一度考えるべきであると考えられる。</p>

46	石木ダム問題について、地元住民にとって自分達の故郷がなくなる事はとても悲しいと思いました。 ダム問題に関連して、私は個人的に宮ヶ瀬ダムについて調べた事があります。 宮ヶ瀬ダムはダム建設で実際に沈んだ村なのですが、宮ヶ瀬ダム渇水時に、宮ヶ瀬の名残を見るとダムで水問題は解決するのかと考えさせられる事があります。 そのため、不用意なダム建設は住民だけでなく行政も苦しむと思います。
47	石木ダムが問題視されていることとして客観的かつ合理的なデータを住民に提示されていないことにある。ダムを設立するとなれば莫大な資金が必要になるが、このお金の出どころとなる税金や水道代は住民が払っている。創立が発表されてから50年近くたっているにもかかわらず解決に近づいているとはいいいがたい。本当に洪水被害を削減するのに石木ダムが必要なのか、本当に石木ダムがないと佐世保市は安定して水を供給できないのか。後戻りできない状態なのかもしれないが住むのは住民であるし、お金も少なからず払っている住民のためを思うならなおさら必要性について考えてほしいと感じた。
48	幼いながらに、機動隊の人が来ることで「自分たちの居場所をとられる」ということは何となくわかっていた、という言葉がとても印象に残っています。また、小さい子供たちが大人の方と一緒に抗議運動に参加している動画を見て、自分たちがどんな状況に置かれているのかまだよくわからないはずなのに 一生懸命自分たちの故郷を守ろうとしている姿にとっても衝撃を受けました。今、もし私自身もダム建設のために自分の故郷がなくなってしまうといわれたら やはり受け止められないし、納得のいかない理由でのダム建設であれば同じように抗議すると思います。 町の方もおしゃっていましたが、住民の方が見張っていない早朝や真夜中に来たり、強制的に土地を奪うのではなく、きちんと話をして納得してもらったうえで建設の工事をするべきだったのではないかと私も考えます。
49	授業スライドで見た石木ダムの集水域は川棚川流域のたった11%であり、洪水を止めることに大きく役立つとは思えず、加えて水資源の確保のためにはほかの大きな川につくれば良いのにも思った。佐世保市の水供給量が将来増加するというのは、佐世保市の人口減少から見ると無理がある。石木ダム建設は明らかに見直されるべきだが、それがされないのには長崎県と佐世保市の意地やプライドがあるのだろうかと思った。しかし、これまで石木ダム建設にかかわったすべての人の労働力を考えると、もうそろそろ賢明な決定をするべきだと思う。
50	県は石木ダム建設絶対反対同盟をつくるほどダム建設に対して反対の意を示した住民たちを排除し、合意がないにもかかわらず強制測量を行った。確かに、県はダムを建設することで何らかの利益があるので、ダム建設を試みたのかもしれない。しかし、その住民の気持ちも考えずに、話し合いの場を設けようともせず、無理矢理それを行うというのは民主主義に反しているのではないだろうか。
51	私は、この石木ダム問題の概要について知ったとき、なぜ行政はここまでしてダムをつくることを押し切ろうとしているのだろうと疑問に思った。傍から見れば、正当性のないデータ予測をもとに設立に踏み切ろうとしていて、それでお金の負担をさせられる住民は反対して当然だと考えた。 長崎県に移ってきた一人として、この問題が双方合意で平和に決着してほしいと思った。
52	石木ダム問題について、 今回の問題は県が川棚町に無断でダムを建設することを始めたことに起因する問題だが、現状最高裁判決でダム建設は問題ないことになっている（公共の福祉に適する）とされているので、法的にもうどうしようもない問題だと思う。さらに13世帯の土地の強制収収 容、代執行が可能で時点でダム建設は秒読みなのは確かであると思う。正直、自分がこのダムに沈むところで立ち退きをお願いされる立場だったら、少し渋るだろうが、立ち 退くだろうと思う。なぜならば、立ち退き料が相当以上は払われるはずだからだ。結局 何が言いたいのかというと、自分はいくまでも法に基づいた行動を県はとるべきだし、法に基づいた行動をこのダムに沈む世帯はすべきことが望ましいということだ。

53	僕は、石木ダムは作る必要がないと思いました。石木ダムを造る予定の位置に作ったとしても、近くの川から離れており、洪水を防ぐことができない可能性が高く、また佐世保市の水が十分に足りているのであれば、わざわざ高額な建設費でダムを建設するメリットはないと思いました。
54	石木ダムは、洪水調節や流水機能維持などを目的に建設事業が開始された。しかし、生活の安全へ不安を抱えていたり、居住権利が奪われることに不満を覚えたりしている建設地の住民たちは、座り込みや裁判所への申し立てなどを行い、抗議の姿勢を見せ、行政と住民の間で対立が生じた。
55	今まで長崎にあのような地域があるということは全く知らなかった。県の対応は村の人々を隔離し正しい情報を流さないことでダム建設反対運動を行っている人たちを世論の敵に仕立て上げるための行動のように思えた。あのようなことは決してあってはならないことであり。国や県には正しい情報を流す義務があるのではないだろうか。今回の講義で石木ダム問題の真相に触れることができ心からよかったと感じた。
56	今回の講義で取り上げられた石木ダムの問題を自分なりに調べてみました。佐世保市長崎県の共同事業であるが、この建設計画は40年以上も前に計画された昭和的な発想の計画で今の時代には全く合っておらず、佐世保市の主張する洪水対策として建設する根拠が乏しい状況である。自分は建設しなくてもいいのではないかと個人的に感じました。
57	県が、川の流域の約11%しか及ばない地点を堰き止めて洪水対策の巨大なダムを建設しようとしていることが理解できなかった。暴力こそなかったものの、地元住民との相談なしに彼らを牽制して強制測量を行ったことは問題である。行政は、ダムを建設する必要性やその根拠、予想される負の影響等を提示しながら、ダムの建設によって大切な故郷が失われることになる地元住民に対してきちんと説明するべきであった。
58	県が県警機動隊を導入して、住民を排除しながら強制測量するというのは本当に悪政だなと思いました。水の需要がこれから増えるという根拠がない理由でダムを強制的に作るのはいつまでたっても問題は解決しないと思います。県は住民としっかりと話し合わなければならぬと思います。
59	石木ダム建設を考える際に長崎県が川棚町と「地元の了解なしではダムは作らない」と覚書を結んだが、その後の強制測量や事業認定申請など、覚書とは反するような行為をしていることは建設予定の地域住民への裏切りのほかでもない。見方を変えれば、憲法13条「公共の福祉」に該当するように思えるが、公共の福祉に石木ダムが必要とは言いきれない。それどころか、ダムが決壊または緊急放流を行ったときに川棚川下流域の住宅などにより甚大な被害が出てくると考えられる。石木ダムの予定位置図から想像するに相当な貯水を行うと考えられるからである。平成30年7月の西日本集中豪雨の時に広島で起こった被害から考え得るものである。今からでも石木ダム建設を批判的な考えをも持って再度考えるべきである。
60	石木ダムの問題はおよそ60年から起こっていたということを知り驚きました。私は地元に対してあまり愛着がありません。そのため、立ち退きに応じず反対運動をする住民の方々の気持ちは私にはよくわからないと思っていましたが、住民の方々は集落に住み続けたいという思いがとても強いのだということを感じることができました。
61	石木ダムは、佐世保の川棚の川原に建設する予定のダムである。このダムの建設の目的は佐世保の水不足対策と洪水対策であるが、地域住民は40年以上前から建設に反対している。反対の理由は、川原が水の底に沈むからである。さらに、現在では佐世保の人口が減少して貯水の必要もなくなってきている。
62	石木ダム建設において、行政が強行測量を行ったことに対して、なぜその方法を取ったのか理解できませんでした。暴力は振るはずとも、住民は強い憤りを覚え、さらに住民と行政の間に深い溝が生じてしまうからです。また、彼らは水が重要なホテルを文化形態にとり入れています。そのため、ダムを造ることで、彼らの文化を壊してしまう恐れがあると思います。これらのことから、私は、行政はガキ大将のような方法ではなく、親身になって大人な対応をするべきであり、それがお互いに納得した解決策を見出すことができると思います。また、私の出身地は沖縄県ですが、沖縄も銃剣とブルドーザーを使って基地を作られた過去があり、共感できるなあと感じました。



63	あまりにも勝手な公共事業で市民の負担の大き過ぎる計画だと感じる。少し調べてみると洪水を防ぐ手立てという目的で建設予定らしいが、ダムが洪水解決への手立てとはあまりならぬらしく本当に無駄な公共事業だと感じた。もう少しやれることがあるのではないかと考える。
64	治水ダムについて一概には言えませんが少なくとも石木ダムについては説明を聞く限り建設する必要を全く感じませんでした。認定を取り消さない国も国だとは思いますがそれ以上に県(市?)がそこまでこのダムに固執する理由はサッパリ分かりません。西日本豪雨の際のダム放水で犠牲者を出してしまった後でようやく豪雨時のダム制御の一元化が始まるのは如何なものかと、自然災害という生き物にはどうしようもない相手ではあるし日本人の諦観にも似た自然観も手伝っているのかもしれませんが、それにしても被害や犠牲が出てからでは、あまりにも対応が後手に回りすぎてるとなと思います。
65	石木ダムの建設は、石木川周辺の自然や景観を損なうことに加え、石木川によって水田や畑等の農業を営んでいた人々の生活を壊してしまうことにつながる。石木川周辺には町の人々が愛する蜚が生息しており、ダムが建設されればその美しい景色も見られなくなる可能性が高い。ダム建設による利益よりも、そこに住む人々の暮らしや意向を尊重することが最も重要だと考える。
66	私は今回の石木ダム問題の授業を受けて、長崎出身なのに詳しく知らなかったことに気づきました。現地の人々が反対しているのにも関わらず、無理にダムを造ろうとするのはおかしいと思います。専門家の方が今後ダムの必要性は低くなる可能性があると言っていたので、もう一度、住民の生活を変えてまで石木ダムを造る必要があるのか考えて欲しいです。
67	私は、石木ダムを作ることに反対である。ダムを作る目的である洪水の防止や水の確保などがある。佐世保市の一日最大給水量の予測と実績には大きな差が生じているため、佐世保市が水不足になる可能性は低く多額の費用をかけてダムを造る必要はないと思った。洪水の防止においても石木ダムを作ったからといって防ぐことは難しいと思った。また、ダムを建設するとその生態系が崩壊してしまう危険性もあるためにダムを建設する必要はないと思う。
68	ダム建設に対する住民の反対が多く、水が足りていないわけではない上に環境破壊をもたらすかもしれないというリスクがあるにも関わらず、県はダム建設を強行しようとしている為、住民と県政を行っている人々が話し合う必要があると思いました。
69	私は高校生の時、石木ダムのほたる祭りに行きました。コロナが流行って行けていないので、とても残念です。また、石木ダム問題に関する映画を映画館で観ました。だから私はこの問題についてとても興味があります。ずっと、入れ替わりで工事の人が来ないように見張りをしていることも、自分たちの大好きなこの町を守りたいという、思いなんだと思います。何十年前からこの問題は続いていて、終わりが見えません。私は、そこがこれからの世界が直面する問題だと思います。ダムや風力発電や、大規模な太陽光発電を作るということは、どこかの土地を使わなければなりません。日本は、世界的に見ても平地が少なく、地元住民と国や県との対立は起こりやすいと思います。持続可能な社会を実現する！という目標を立てることはできます。しかし実際問題、化石燃料の使用を減らしながら、再生可能エネルギーの使用も増やさなければなりません。そこをどう向き合っていくか、答えは出ません。だからこそ、周りの人がしっかり問題について考えることが大事だと痛感しました。
70	長崎県の職員たちは、もう一度石木ダムの必要性について考えるべきだと思います。ビデオの中で専門家の方もダムを作っても洪水の時に必ずしも役に立つとは限らないと言っていました。また、ホテルのように生態系にも富んでいるため、ダムを作ってしまうとメリットよりもデメリットの方が大きいと思いました。そして、私たちも石木ダムについて知っていく必要があると思いました。

71	1982年に地元の合意がないにも関わらず長崎県による強制測量調査が行われ、県が引き連れてきたおよそ150人の県警機動隊と反対住民との衝突があった。私は、長崎県の対応がおかしいと思います。力ではなく、しっかりと話し合いを通して双方が納得いくまで、このダム事業を進めるべきではなかったと思います。そうでないと、その地域にこれからも暮らしていく地元の方達の反対をずっと受け続けることになると思いますし、長崎県の信頼がなくなると思いました。
72	石木ダムの建設目的としては、佐世保市の水の確保と川棚川の洪水防止がある。しかし、これは昭和的な考えで、今の時代に全く合わず、計画に客観的な根拠もない。工事費や生態系の破壊など多くの問題の原因にもなるため、ダム以外の方法で対処できないのか考える必要があると思う。
73	川原の土地を売った人が苦しんでいるという話から、公共事業がもたらす恩恵がある一方で奪うものがあるということを忘れてはならないと考えた。個人の自由や財産を奪わなければならない妥当な理由、公共の福祉を説明することが、公共事業を行う行政には不可欠だ。公共事業は公共の福祉という考え方の下で実行されるが、石木ダムにおいては水需要が急激に増加するという強引な予想がいつまでも主張されていて、十分な説明が成り立っていない。つまり石木ダムが建設されても公共の福祉は全く得られないため、長崎市と佐世保市は、ただ川原の美しい自然や文化を奪うことになるだけである。このように行政は常に正しいわけではないため、一般市民は政治に関心を持ち、監視することが悪政を止めることに効果的だと考える。
74	石木ダムの建設計画は無駄な公共事業の典型的な例であり、佐世保市の財政の大きな負担だと思います。ダム以外にも水不足の解決方法はあったはずです。さらに佐世保市の人口は年々減少しているため、このままでは次世代への負担が増していくばかりです。県が、やった者勝ちの論理でダム建設を強行する姿勢には不信感を抱きました。住民や動物の住処を守るためにも、より多くの国民がこの問題に関心を持ち、声を上げ、そしてそのいく末を見守る必要があると思います。
75	石木ダムは、長崎県東彼郡川棚町川原区に、佐世保市と長崎県が石木川をせき止めてダムを計画しようとしているもので佐世保市の水道水の確保と、石木川とその石木川が流れ込む 先の本流・川棚川流域の洪水の防止の2つが目的で、これは、1975年から計画されていて、1982年には長崎県による強制測量調査が行われ、県警機動隊と反対住民が衝突した際、住民が体を張って、命がけで故郷を守り抜いたということも起きていて、それが報道され、批判があったため、一時は計画が収まったかに見えたが、2013年に国により正式に事業認定という強制収用の前提となる制度が定められ、2019年5月には長崎県の収用委員会が、地権者に土地を明け渡すように求める裁決を出し、県が強制的に土地を習得できることが決まり、行政が実力行使で明け渡しをする行政代執行が可能になり、住民の財産権だけでなく、居住権すら奪われようとしています。住民が反対している理由として、公共性を示す客観的で合理的なデータが十分に示されていないことです。国や県は、強制執行ではなく、住民が納得いくようなデータの提供を行う義務があると思いますし、それができないのであれば、この計画は断念すべきだと考えます。
76	私は石木ダムの建設について反対です。石木ダム建設の目的は洪水防止や佐世保市に安定した水源を確保することを目的としています。でも実際は石木ダム建設予定地である川棚川にダムを造ったとしても洪水の防止にはほとんど役に立たない。また、水源を確保するという目的とあるが、佐世保市は人口が減ってきて佐世保市民の水の需要は年々減少している。それ以前に佐世保市は漏水がひどく毎日5万人分の生活用水と同じくらいの量の水が無駄になっている。だからダムを造って水源を確保するより先に何とかしなければいけない問題があることに気付いてほしいと思います。川棚町川原地区は自然が豊かで夏には蛍がたくさん見れるといえます。ここにダムを作ってしまうえばその自然も壊されてしまうし、そこに住んでいた生物も死んでしまい絶滅する生き物も出てくるかもしれません。私は決してすべてのダム建設事業に反対しているわけではありません。ダムを造ることによって人間の生活が守られているということも事実です。だから、自然を守ることと人間が便利に安全に暮らすためにダムや消波堤などを造ることのバランスを考えていかなければいけないと思います。今回の石木ダムは客観的に見ても失うもののほうが多いので佐世保市民には必要ないのではないかと思います。だから私は石木ダムの建設には反対です。

77	<p>13世帯54人の住民の暮らす里山、長崎県東彼杵郡川棚町川原地区で、長崎県と佐世保市が共同事業で行うダム建設、石木ダム建設が、1975年に計画され建設工事が進まずにいる。ダム建設の目的は、佐世保市の水の確保と川棚川の洪水の防止とされているが、総事業費が538億円に上り、そのうち佐世保市が負担するのは約353億円になるという事実や水の確保と洪水の防止につながる根拠に乏しいこと、生態系の破壊、次世代のへ負担などが原因で、住民の反対運動もあり、工事が遅れている。ダム建設の必要性を示し、住民を納得させなければならない。あるいは、建設による多くのデメリットを考慮して建設を取りやめなければならない。より多くの人にとって合理的な事業であるべきだと考える。動画の中では、石木ダム建設に反対する人たちの暮らす地域の自然の豊かさが感じられる映像が多く流れていて、とてもいい気分になった。でも、私自身としては、その地域にダムの建設が必要な理由がわからないし、反対に、ダム建設に反対する理由も解らないから、まだ両者どちらの意見にも納得できず、どちらにも寄り添うことができないのが自分の現状なんだなと感じた。</p>
78	<p>比較的近年においても、行政の強権的な政策実行が行われていたことを知り、とても驚いた。そして、それに対抗するための住民らの努力や苦労があったことを知ることができた。今後の日本で同じことが起こるとは考えにくいですが、歴史上あったこととして風化させてはならないと思った。</p>
79	<p>私は今回の講義で、石木ダム問題について詳しく学ぶことができました。一度高校生の頃に自分で勉強したことはあるのですが、現地の様子や意見など、初めて学ぶことも多くすごく理解が深まりました。特に印象に残ったのは、県が石木ダム建設の理由を明確にせず、ごまかしているということです。佐世保市の水は足りていて、ダムをつくっても洪水対策にはならないという意見が住民から出ているにもかかわらず、県が無理に強制立ち退きを要請したりしてまでダムを建設するというのは納得がいかないと思います。もう少しお互いに意見を明確にし、話し合うべきだと思います。</p>
80	<p>私は石木ダムの建設によって大きな利益が得られるならまだしも、今回の授業を受けてダム建設の必要性は感じなかった。実際に県や市もダムの必要性については十分に説明できていないと思う。それにも関わらず、地元住民を説得することはできないと思う。政府が地元住民の説得を試みるなら、政府として責任を全うする必要があると感じた。</p>
81	<p>川原の地に入った途端に現れる「ダム建設絶対反対」の看板や、行政側の職員が来た時の住民の皆さんの形相から、どれだけダム建設への反対意志が強いかをひしひしと伝わってきた。確かに、行政が行ってきた約束違反は許しがたいし、水需要は減っているのになぜダムを造るのか疑問は残る。これまで何十年とダム建設は進んでいないが、それでも住民は生活してこれたのではないかと、とも思う。しかし、それでもダム建設を進めようとするのには理由があるとも思う。今回の講義では、行政側の主張は少なく住民目線での話だったので、行政側から見た石木ダム問題についても知りたいと思う。</p>
82	<p>現在も住民の理解を得ないまま、ダム開発が進んでいると知ったので、開発を止めて、住民と話し合い、解決してからするべきだと思う。また、住民の生活の場である土地を奪ってまでダムは必要なのか、反対住民は水は現在でも十分に確保できていると主張しているため、ダムをつくるならば十分必要性を県は説明する必要があると思う。私は今回の授業時の動画を見て、その場所の人々は、昔からその土地で生計を立て、地域の人との関係も築いて暮らしているため、お金で解決する話ではないと思った。もっと人がいない場所にダムを作り人間への負担を最小限にする方法を考えてほしい。</p>
83	<p>県が、なぜここまでしてダムを作りたいのかわからない。佐世保市の水の使用量が増えると予測されていたり、洪水を防ぐためという主張は建前のように感じてしまう。ならば、なぜダムを作りたいのか、その本質が少しでもわかると、事態の改善につながるのではないかと考えた。</p>
84	<p>石木ダムの建設は、多額の費用がかかることや、建設の大きな理由とされている「水の確保」と「洪水の防止」が根拠として不十分であることなどが問題となっています。また、ダムの建設の前に漏水の対策が最優先だという声も上がっています。県と市に住民の方々への十分な説明が求められていると考えます。</p>

85	<p>私は石木ダムは造るなくてもいいなら造らない方がいいと思う。なぜならそこには元々存在している自然や住んでいる人々がいるからである。ダムを造るということはそのすべてを壊すということの意味する。ただ、現在の佐世保市が水不足というのは本当のことだろう。人口が減ることで水の需要が減るというのも推測に過ぎない。それにこれだけ自治体がダムの作成を強行しようとするということはそれに賛成している人が少なからずいるということだろう。もちろん、最初に述べたとおり私はできればダムは造らない方がいいと考えている。ただ、反対派の意見だけ受け入れ、賛成派の意見は無視するというのも危険だと思う。また、そういう賛成派と反対派の複雑な構造が未だに石木ダムの問題が解決していない一因なのではないかとも思う。</p>
86	<p>石木ダム問題について第一の問題点としては一番最初に国や県が地元の人になにも相談せずにダム建設の調査に入ったことだと思います。これによって地元の人々は強制的に故郷を追い出されるという恐怖感などがわき対立の溝を一気に深くしてしまったのだと思います。その後は地元の方々が今までずっと反抗してきているにもかかわらず、根拠のないデータ（水利用推移）等を使い無理に調査や工事を進めようとしているのがまたよくないものだと思います。まずは地元の方々とどこに問題点があるのかとか、ダムを造りたい理由とそのメリット、使い道などを詳しく説明して両方の和解を目指していくべきだと思います。</p>
87	<p>映像では川原に住む人はみんな楽しそうに暮らしていましたが、もしここがダムに沈んでしまえばこの光景はもう見られないのだなと感じました。また、自分は川棚町出身で、あそこのホテルはとてもきれいだったことを覚えています。長年続いている石木ダム問題解決のために自分でも何かできないかと改めて感じました。</p>
88	<p>石木ダムで一番の問題は、1882年の県が県警機動隊を導入し、住民を排除しつつ強制測量を行ったことだと思う。「地元の了解なしではダムを作らない」とする覚書を無視している上、強制的に排除されたことにより、住民に心の傷を負わせたこの行動は正当化できないと思う。県は、行動に移す前に住民が反対している理由を考えるべきではないか。私は、住民が反対する大きな理由として石木ダムの必要性があると言えないことがあげられると考えている。まず、石木ダムの建設の目的の一つである佐世保市の水の確保だが、県がその根拠としている将来水需要の課題予測は、実績は全体的に見ると減少しているのに、予測は急激に増加していることから、明らかに不自然な予測であると言える。実際、予測は外れ、佐世保市の水の需要は、急激な増加はなく、減少しているため、この目的は石木ダムの建設の目的として納得することはできない。また、川棚川の洪水の防止という目的だが、石木ダムの建設予定地は、川棚川の中で、狭い範囲しかせき止めることができないため、洪水対策ができるかという点と厳しいという判断できるので、この目的もまた石木ダムの建設の目的として納得することはできない。このような納得できない目的で作られる石木ダムの建設費の538億円は、税金の使い道として、はたして適しているのだろうか。県は考え直すべきではないか。覚書にも記載されている通り、住民を、県民を、納得させる目的を提示しない限り、県は石木ダムの建設を進めるべきではない。</p>
89	<p>石木ダムの建設を開始する際に、地域住民に対する説明を事前に行うべきだったのではないかと思います。ダムの建設は公共事業であり、何の目的もなく計画・実施されることはないと思うので、それについての住民への説明が不十分だったのではないかと思います。</p>
90	<p>石木ダム問題についてはニュースなどで聞いたことはあったけど、詳しいことは全く知らなかったもので、今回学ぶことができてよかったです。まず、石木ダムを建設する大きな目的として洪水の防止があげられています。しかし、建設が予定されているのが石木川といい、川棚川という川の支流の一つです。しかし、石木川は川棚川の流域の約11%ほどしかなく、洪水を防止できるとは言いがたいと思います。しかもその建設費に多額の税金が使われるということで大きな問題となっています。市民と行政が話し合いを行いある程度納得いくような結果になればいいなと思います。</p>

91	今回の講義でのビデオでもあったように、国の独自の判断でダム建設を計画して実行しようとする事は到底許されることではないと思います。住民の方に無断でダムを建設することが、それに見合った利益があるとは思いません。住む場所を奪われる方を全く考えていない身勝手な行動だと思います。このようなことが行われていたことはとても衝撃的でした。東北の件もそうですがまだこのようなことが無くなっていないのは問題だと思います。これからこのようなことが無いように対応を考えてほしいです。
92	石木ダムの反対運動の人たちは高齢者だと思っていて同じ県の中にも実態を全く理解できていなかったと感じました。機動隊を使ってまでも石木ダムをつくらうとしている県や国の姿勢に違和感を覚え、ダムの必要性を正しく理解することが大切だと思います。これからも石木ダムの反対運動は続いていくと思います。ダムへの正しい理解と知識を知り解決に向けて何かできることがあれば行動していきたいと思いました。
93	住民が、多額のお金を受け取らず、体を張ってでも、今の暮らしを守りたいのだなと感じた。特に、蛍が消える可能性や、生態環境が崩れる懸念があるので、建設をすることで起こるデメリットがとても大きいと思った。今後も、行政と住民の対立は続くと思うので、動向を注意してみたいと思う。
94	私は石木ダムについて石木ダムを建設する際に強引な手を使ったことと石木ダムを建設することに合理的な理由がないところが問題だと考える。特に石木ダムを建設する必要性が役所では水の需要が増えてると予想しているが実際のところ需要が減少しているところは特に深刻な問題だと思う。
95	石木ダム問題について今回の講義を聞き私は今までなぜ立ち退きを拒むのか不思議でした。しかし生まれ育った場を失うことをその本人の声を直接聞くと切実に守りたく、失った後たとえ補償金が支払われたとしても心の傷は癒えずに病んだりする人もおりとても解決が難しい問題だなと感じた。
96	ダムは普通、生活をより良いものにするためのものだから、ダム建設で問題が発生してしまうというのはおかしい話だと思った。そこに住んでいる人が納得していないのに、ダムを無理やり作るのはよくないと思うが、作らないわけにもいかないと思うので、難しい問題だと思った。
97	今回の講義で、石木ダム建設めぐり、住民の方々と行政との間の隔たりを感じた。住民の方々は、これまでの地元の自然や環境を保全すべく、ダム建設に反対していた。もしダムが建設されてしまうと、生態系に影響を及ぼすのは明白なことである。だからこそ、住民の方々はダム建設を強く反対されていた。また、ダム建設には自然や環境だけでなく、立ち退き料など人為的な問題も深くかかわっていると知れた。今回の講義で、改めてダム建設の問題は複雑なものであると認識できた。
98	ダムを作ろうとすること自体は悪いとは思わない。しかし、住民からこれだけの反対意見が出ている以上耳を傾ける必要は大いにあるだろう。そもそもこの計画が立てられてからかなり多くの年数が経過しているため、それをそのまま実行しようとするのは技術的な面などもあわせて現実的ではない。技術的な面での見直し、地域住民への理解、そもそもの計画の必要性の検討しなおしが必要だと思われる。
99	石木ダム建設についての議論は長年続いているけど、地域住民が反対し続ける限り実行すべきではないと思います。確かに理由があってダムの建設を考えているのだろうけど、佐世保市の水は足りていると講義資料に書いてあるし、ダムの建設は費用もかかるので行政と地域住民の意見の一致が必要だと思います。本当にダムの建設が必要なら、行政は地域住民が納得できるように理由を述べてほしいです。
100	石木ダム問題について動画の中で、自分たちの故郷が下に沈められてダムが作られるという言葉が印象的でした。ダムが建設され、今まで暮らしてきた家や土地、風景などすべてが埋められて失われるというのはお金で解決できる問題ではないと思います。そのため、お金を渡すから土地を譲ってほしいというのは間違っているのではないかと思います。また、行政の人たちは市民の方々がいない真夜中にダム建設の場所にやってくるというのがとてもひどく、勝手すぎると感じました。もう少し市民の方々の声に耳を傾けるべきではないかと思います。

101	石木ダムの問題は地域住民と長崎県の間で起こっている問題である。ダム建設の問題は長崎を含めて国々に問わず、扱われている問題だ。ダムを建設する理由は洪水の時に取り組むため、そして足りない水を供給すると言うことがある。一方、ダムを立てることでの問題点は生物が生息地を失って生物の多様性がなくなってしまうことがある。私はダムを建設しないほうがいいと思う。なぜかと言うと、ダムを建設する時にまた自然環境を破壊してしまうからだ。さらに日本の人口は減り続けている。この中で水確保のためにダムを建設するとはいいがたい。それで私は石木ダムの建設を反対する。
102	石木ダムの建設は県側が治水のため提案しましたが、実際の現地測定には疑問点が多く、そして測定の正しさもある程度問われています。さらに、予定地の測量の時、県側は地元の住民たちと意見が合わなく、住民たちとの信頼関係を損ないました。そもそも自然豊かな川棚町では、人間と自然が調和して共生している姿が見えます。さらさらと流れる小川、生い茂る森林、そして、夜にピカピカと光る蛍、どちらも人の心を快くするもので、こんなに綺麗な自然環境を壊そうと誰でも簡単にさせたりしないと思います。
103	石木ダムの建設の目的は主に佐世保市の水道用水の確保と石木川と洪水の防止が挙げられる。これはずいぶん昔のダム計画だが、説明が不足や「居住権」さえ奪われるなどの理由で、建設予定地の住民らの反対運動によって、進行できない。石木ダム建設に反対される方々が、事業認定の取消しを求めてを訴えていた。去年、長崎地方裁判所佐世保支部により、原告の請求を棄却する判決が出されましたが、原告は福岡高等裁判所へ控訴している。これはかなり大きい社会問題だと言える。
104	今日の講義を通して、石木ダム問題について理解した。佐世保市は慢性的な水不足の状態であり、水不足を解消するために石木ダムに貯水して、水道用水を確保しようと言うのは石木ダム建設原因だ。しかし、地域住民が反対意見が強硬である。建設する時田植えの準備をする水田への通り道をいきなり土砂でふさがれ、また住民側は県に対して不信感が強く、対話が実現するかは不透明だなどの問題がある。さらに、県側と住民側は詳しく交流を行うべきだと思っている。